

令和6年 網走市議会
総務経済委員会会議録
令和7年2月27日(木曜日)

○日時 令和7年2月27日 午前10時41分開会

総務議事係 山口 諒

○場所 議場

○議件

午前10時41分開会

1. 網走市人口ビジョンについて
2. 第3期網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略素案について

○井戸達也委員長 おはようございます。
ただいまから、総務経済委員会を開会いたします。

本日は、所管事務調査になります。

それでは、議件1. 網走市人口ビジョンについて説明を求めます。

○高橋剛情報政策課長 本市では、平成27年に網走市人口ビジョンを作成いたしました。当時推計した人口と令和2年に実施した国勢調査の人口を比較すると乖離が生じていることから、人口ビジョンを見直すことといたしました。

資料1号、人口ビジョンの概要版を御覧ください。概要版中央に、人口ビジョンにおける将来展望を記載しております。今回、人口ビジョンにおける将来推計につきましては、国の研究機関である国立社会保障人口問題研究所(社人研)の人口推計を基礎数値として用いることといたしました。

この推計によると、本市の人口は、2020年の約3万6,000人から、2050年までに、約2万1,000人まで減少するとされています。特に、15歳から64歳までの生産年齢人口の減少が深刻で、2020年の約2万人から、2050年には約1万人まで半減するとされています。その一方で、高齢化率は上昇を続け、2050年には42.8%に達するとされていますが、老年人口は徐々に減少すると見込まれています。

旧人口ビジョンでは、2040年に人口3万2,900人を確保するというもので、人口推計に用いた2040年の合計特殊出生率を人口置換水準の2.07を上回る2.20として推計し、2020年には、人口が3万8,616人になるとされましたが、実際の国勢調査人口では、2020年では、3万5,759人となり、2,857人の乖離となりました。この理由としては、近年の出生数の減少と若年層の転出超過などが考えられますが、新たなビジョンにおける人口推計では、これらの人口動態等を基に推計した人口推計値2万1,159人を確保するということを目指すことといたしました。

続きまして、人口ビジョン本編を御覧ください。

1ページからは、人口ビジョンの位置づけ、対象期

○出席委員(8名)

委員長	井戸達也
副委員長	石垣直樹
委員	小田部照
	澤谷淳子
	立崎聡一
	深津晴江
	松浦敏司
	山田庫司郎

○欠席委員(0名)

○議長 平賀貴幸

○傍聴議員(7名)

金兵智則
栗田政男
里見哲也
永本浩子
古田純也
古都宣裕
村椿敏章

○説明者

副市長	後藤利博
企画総務部長	秋葉孝博
企画総務部参事監	小松広典
企画調整課長	佐々木司
情報政策課長	高橋剛
情報政策課参事	山縣叔彦

○事務局職員

事務局長	岩尾弘敏
次長	石井公晶
総務議事係長	和田亮

間及び現状の分析を記載しております。6ページの人口動態の推移について御覧いただくと、本市の人口は、1996年から減少が続いておりますが、2000年代中盤までは、死亡数よりも出生数が上回っており、人口減少の主な要因は、転出超過による社会減少でした。しかしながら、それ以降、死亡数が出生数を上回る自然動態の減少に転じたことで、本格的な人口減少局面に入ることとなりました。また、近年の社会動態の特徴として、外国人の転入者数増加が挙げられます。7ページに、社会増減の推移を記載しておりますが、2020年以降、一旦減少傾向となりましたが、コロナ禍が開け、増加傾向となっております。8ページには、自然動態の推移を記載しております。概要にも記載のとおり、生産年齢人口の減少が顕著となっております、老年人口との差が縮まっていくのが見てとれます。11ページには、男女別の将来推計を、12ページには、5歳階級ごとの将来推計を記載しております。14ページからは、人口減少による影響について記載しております。人口減少に伴い、就業者数も減少する見込みで、16ページのとおり、全ての産業で4割以上減少する見込みです。18ページからは、小学校区ごとの将来人口推計を記載しております。2020年の現状人口と2050年の推計人口を比較すると、総人口の減少率では、東小学校区がマイナス34.4%と最も低く、西小学校区が、マイナス50.3%と、最も高くなりました。年齢区分別に増減率を比較すると、全て減少となりますが、年少人口では、潮見小学校区がマイナス51.0%と最も低く、呼人小学校区が、マイナス96.4%と最も高く、生産年齢人口では、東小学校区が、マイナス37.5%と最も低く、西小学校区が、マイナス59.8%と最も高く、老年人口では、南小学校区が、マイナス12.8%と最も低く、呼人小学校区が、マイナス29.1%と最も高くなりました。20ページ以降に、各小学校区における5年ごとの人口推計結果と、それぞれの特徴を記載しております。29ページからは、人口の将来展望として、人口分析のまとめを記載しております。社会増減として、特に、20から24歳の生産年齢人口の転出が顕著であること。転出先としては、札幌市が最も多く、次いで北見市、旭川市など、道内主要都市が続いていること。外国人の転入超過数は、近年増加傾向にあり、社会減の抑制に寄与しております。また、自然増減といたしましては、合計特殊出生率は、全道平均を上回っているものの、人口置換水準の2.07には達していないことか

ら、長期的な人口維持が困難な状況にあることを記載しております。30ページには、冒頭に説明いたしましたとおり、社人研推計に準拠し、これまでの人口動態がこのまま推移するとした2050年の人口推計値2万1,159人を確保することを目指すとした将来の見通しを記載しております。

説明は、以上となります。

○井戸達也委員長 ただいまの説明で、質疑等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

○松浦敏司委員 非常に深刻だなというふうに思います。2050年となると私はこの世にはいないと思いますけれども、しかしここまで、いや場合によっては、それ以上減るのかもしれませんが、問題は、この状況をどう、最低でも2万1,000人を維持するというようなお話ですけれども、どうやって、子供を産み育てるとというのが上回らないと人口は増えないわけですから、その辺の何といいますか、市としての今後の取組なんかがどんなふうになっていくのかなという、そういうふうに思うわけですけれども、そういったことで、何か市としてこういうような取組をしたいものだというようなことはないでしょうか。

○高橋剛情報政策課長 将来の見通しのところ、一番最後のところにも記載しているのですが、これまでも出生率の向上や若年層の定住促進、転出超過の抑制などの施策は進めてきたと思いますけれども、今後も自然減及び社会減の両面から、人口減少の進行を緩和する取組をこれからも粘り強く推進し、先ほど申し上げた2050年の人口2万1,159人という人口の確保をこれから目指していきたいと考えております。

○松浦敏司委員 2、3日前にテレビで出ていたのですが、やっぱり全国の中で数は少ないんだけど、市や町で人口が増えている、あるいは、移住者が増えているというようなところも、数は少ないんですけどあるという点では、私は、何かヒントがあるのかなというふうに思って、網走のような、我々、網走に住んでいる者は、なかなか網走の魅力というものをよくわからない、あまりにも当たり前で。でも、やっぱり全国の網走以外のところからすると、網走の魅力っていうのは、多分あるんだし、例えば自然なり、景観なり、湖が4つも5つもあるというようなところも非常に珍しいし、そういう意味では、どうやって網走の魅力を発信してい

くかっていうのと、やっぱり子供を産み育てやすい町だなという印象を与えるということが非常に大事だなというふうに、私なりに感じているわけです。そういう魅力、網走の魅力をどう発信するかというようなことも非常に大事ではないかというふうに思うのですが、その辺、いかがお考えでしょう。

○高橋剛情報政策課長 委員おっしゃるとおりだと思います。網走の魅力を発信して、様々な側面から網走に来ていただく方を増やすという施策も大変大事だと思います。また先ほど、近年、外国人の転入が多いというお話をさせていただきました。資料には、昨年までの転出、転入の社会減について、リスト、表を記載しておりますけれども、実際、直近で言いますと、令和7年1月末で住民基本台帳上の外国人が550人で、1年前は、令和6年1月末で外国人が407人ということで、1年間で100人、150人近く増えているという最近のトレンドがございますので、そういう外国人の受入れだとかも含めた形で、これから施策を進めていきたいと考えております。

○松浦敏司委員 今日、これを見させていただいた段階ですので、よりしっかりこの内容を検討させていただいて、今後、また意見を述べるようにしたいかなというふうに思います。

私のほうからは、以上です。

○井戸達也委員長 ほかに。

○小田部照委員 私のほうからもちょっと確認したいのですが、人口減少問題、本当に網走にとって、本当に重大な課題、事態になってしまっているんですけども、僕、これ代表質問にも入れているんですけども、ちょっと確認しておきたいんですけども、当初は、2040年を目標の一つ掲げて3万2,900人だったかな、という数字だったら、もう既に今年の今時点でね、3万、その目標は下回っているっていうような現状なので、到底クリアはできないというか、もう既にそれより下回っているのですね。あれなんですけれども、これを2050年に今回しているんですけども、この詳細な2万1,159人って、1人単位まで詳細に出ているんですけども、これで、この計算式でいくと2040年だとまだ15年も先の話なので、何人っていう見通し、計算になるんですか。

○高橋剛情報政策課長 今の御質問ということは、2040年における推計値が何人になるかという御質問でよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

こちらの人口ビジョン本編の10ページ、御覧いただきたいと思うんですけども、こちらに2020年から2050年までの5年ごとの推計値を記載しております。そちら見ていただきますと、2040年の推計値ということで2万5,416人という推計結果になってございますので、2050年、2万1,159人を目指すということの目標を掲げさせていただきましたけれども、順調にといいますか、これを下回らないような推移を考えますと、2040年には2万5,416人を下回らないことを目指すということが考えられると思います。

○小田部照委員 つまり2040年の目標は3万2,900人だったけれども、実際は、2万5,000人ぐらいになるだろうと。もう8,000人も既に目標値、乖離しちゃったっていうことなんですね。

○高橋剛情報政策課長 そのとおりでございます。

○井戸達也委員長 ほかに質疑等ございますでしょうか。

○深津晴江委員 将来展望の部分、まとめのところで、20歳から24歳の生産年齢人口の転出が顕著だということで分析なさっていますけれども、理由をどのように把握なさっているのでしょうか。

○高橋剛情報政策課長 こちらで、今おっしゃられたとおり、特に20から24歳の生産年齢人口の転出が顕著だということで、逆に、それより15歳から19歳の年齢の転入の超過が多いということがありますので、一番大きい原因といたしましては、農大へ市外から入学する方が多く、逆に転出する、卒業した際に、農大生が多く網走市から転出していることが原因と考えております。

○深津晴江委員 農大の入学、あるいは卒業時の状況が多く反映されているということなんですけれども、それでは、一つとしてやはり農大との関係をどうしていくのかっていうところも出てくる、今後出てくる。今現在もやっていらっしゃるとは思いますが、いかにそこを残していただくのかっていうところが大きく出てくるのかなというふうに思うのですが、それでは、結果的に学校の課題っていうことでよろしいですか。例えば、近くでしたら北見工大さんがあったりとかしていますが、網走で生まれ育ってもどこかで学んで、それが、Iターン、Uターンで帰ってくるっていうところの分析はなさっていらっしゃるでしょうか。

○高橋剛情報政策課長 農大生、農大に入学する学生の方なんですけれども、ほぼ、市外から入学され

る方が多い状況です。令和6年度では、入学者数366人中、市外から入学した方が365人、市内から入学したのが1名という形ですね。1年前、令和5年でも、入学者数が378人中、網走市から入学したのが2人、市外から入学された方が376人ということで、圧倒的に網走市外から入学された生徒さんが多いということで、卒業後、なかなか網走市内で就職する方が少ないという現状があると見てとれます。なかなかそれに対する施策、引き止めることというのが、なかなかできていないのが現状かとは思いますが、少なくとも、この点について、また何らかの施策を起こして対処したいと考えております。

○深津晴江委員 この年齢の転出が顕著だということで今、何らかの、今後対応していただくということでしたが、多分、その後の20代後半、30代、あるいは40代の方も、やはり転出をどんどんなさっている状況が、実際として私はあるかなというふうに考えて捉えておりますが、そこら辺の分析をしっかりとっていくことが必要かというふうに思いますが、その点については、いかがでしょうか。

○高橋剛情報政策課長 委員おっしゃるとおり、一番、転出超過が顕著なのが、20から24歳の年代がほかの年代に比べて目立っているということで、ただ、やっぱりほかの、それ以上の年代の層でも転出超過は、あるという状況です。ですので、顕著なところに重点的に施策を打つのは当然ですが、そのほかの年齢層につきましても、その社会減を防ぐような取組というのは、大変必要だと考えております。

○深津晴江委員 先ほど、網走の魅力発信というような御発言もありましたが、やはりそこをしっかりと分析をして、例えば、自然豊かだから網走に残るかとなると、なかなか難しい状況もあるかと思えます。やはり仕事をするとところがないですとか、様々な要因あるかと思えますので、まずそこをしっかりと分析して、その上でどうするかということを考えていかなければ、今回、出していただいた目標値には、到達するのも難しい状況があるかなというふうに思いますので、ぜひ、私としましては、なぜ転出するのかというところを真摯に受け止めていただければというふうに考えますが、いかがでしょうか。

○高橋剛情報政策課長 委員おっしゃられたこと、大変重要なことだと思いますので、その点も含めて今後、検討といいますか、情報を精査したいと考え

ております。

○井戸達也委員長 ほかに質疑ございませんか。よろしいですか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

それでは次に、議件2. 第3期網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略素案について説明を求めます。

○佐々木司企画調整課長 第3期網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略素案について説明をいたします。この総合戦略は、これまで、産・学・金・労など団体の代表や有識者ら18名からなる網走市選択する未来会議にて種々御協議をいただき、先般、素案がまとまりましたので、この内容を報告するものでございます。なお現在、3月21日までパブリックコメントを実施しており、この御意見も踏まえた上で、年度内に成案化してまいります。

それでは資料2号、第3期網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略素案を御覧ください。まず、1ページでございます。(1) 戦略策定の趣旨ですが、本市は、平成27年、令和2年にそれぞれ戦略を策定し、2期10年にわたり、地方創生に取り組んでまいりました。この間、人口減少は、想定を上回る速さで進行し、都市部への人口流入や少子高齢化に歯止めがかからず、また、新型コロナウイルス感染症の拡大は、地方経済に大きな影響を与えました。デジタルの活用は、あらゆる分野で進み、社会経済は大きく変化しています。国においては、デジタルの力を活用したさらなる地方創生のため、デジタル田園都市国家構想総合戦略を策定したところであり、これを踏まえ、本市の強みを生かした施策と今後予想される社会課題の解決を図り、地方創生を目指すため、第3期の総合戦略を策定するものでございます。(2) 第6期網走市総合計画との関係ですが、本戦略は、総合計画の戦略版と位置づけます。

(3) 将来の人口展望ですが、今回、改定した網走市人口ビジョンでは、2050年時点で2万1,159人の確保を目指しているところでございます。(4) 本戦略の対象期間は、令和7年度から11年度の5年間といたします。次に、2ページを御覧ください。2. 基本目標は、記載の5項目を掲げております。各目標は、これまでの方向性と変わりはありませんが、わかりやすい簡潔な表現に改めました。次に、3ページを御覧ください。3. 客観的な効果検証の実施、(1) 政策目標設定ですが、基本目標ごとに重要目標達成指標を、その達成に向けた個別の

施策に対し、重要業績評価指標を設定し、重要業績評価指標の達成度は、毎年確認をいたします。

(2) 持続可能な開発目標ですが、戦略の施策は、SDGsの理念と整合性があるため、目標ごとに17のターゲットアイコンを掲げ、関係性を明らかにいたします。

次に、基本目標ごとに方針、具体的な施策などの要点を説明いたします。4ページを御覧ください。基本目標1「誰もが安心して働くための産業振興と雇用の場の創出」です。1. 基本方針は、(1) 産業振興策の構築、(2) 就労環境の向上と人材の確保としています。KGIは、市内事業所の従業員数で、令和3年度の基準値1万4,426人に対し、令和11年度の目標を1万4,000人としています。2. 講ずべき施策に関する基本的な方向は、基本方針1に対しては、1-1、地域産業のさらなる競争力強化の取組、1-2、国内外への販路拡大、1-3、災害の少ない地域特性を生かした企業誘致の促進の3項目、基本方針2に対しては、2-1、幅広い人材の確保、2-2、デジタルを活用した企業価値の向上と課題解決の2項目としています。5ページ、3. 具体的な施策では、1-1の1つ目、農水産の地元理解と付加価値向上へ新たに、農業、漁業に対する市民理解や子供たちに魅力を伝えていく要素を加味しております。また、6ページ、2-1、幅広い人材の確保では、4つ目の地域医療・地域福祉を支える人材の確保と5つ目の外国人材の受入支援を追加しております。7ページ以降は、KPIです。新たに、地元食材を使用した学校給食等でも提供できる新商品の開発、家畜伝染病の発生、伐期到来私有林の計画的な更新、水産業への新技術導入実績の4項目を追加しております。

次に、9ページを御覧ください。基本目標2「地域特性を生かした交流関係人口の拡大」です。1. 基本方針は、(1) 交流・関係人口の拡大としております。KGIは、観光入込客数で、令和5年度の基準値、令和11年度の目標値とも網走市観光振興計画で定める値としております。2. 講ずべき施策に関する基本的な方向は、1-1、おいしいまち網走の確立と進化、1-2、スポーツ・芸術文化を切り口とした交流関係人口の拡大、1-3、多様な機関との連携による関係人口の拡大、1-4、マーケット視点に立った観光客の誘致拡大の4項目としています。10ページ、3. 具体的な施策では、新たに1-1の1つ目、観光資源の磨き上げと開発による魅

力向上へ網走を舞台としたアニメやゲーム作品を活用すること、2つ目の滞在コンテンツの創出と効率的な情報発信による環境整備でワーケーションなど、長期滞在型受入施設の充実、デジタルマーケティングに基づくプロモーションを加味しています。また、1-2、スポーツ・芸術文化を切り口とした交流・関係人口の拡大では、3つ目の、オホーツク網走マラソンをきっかけとした誘客促進を追加しております。11ページ以降は、KPIです。新たに、網走マラソンエントリー数を追加しております。

次に、12ページを御覧ください。基本目標3「希望に応じて、結婚・出産・子育てができる環境づくり」です。1. 基本方針は、(1) 結婚・妊娠・出産・子育てについての切れ目のない支援、(2) ワーク・ライフ・バランスを掲げています。KGIは、合計特殊出生率で、令和5年度の基準値1.14に対し、令和11年度の目標を1.31としています。2. 講ずべき施策に関する基本的な方向は、基本方針1に対しては、1-1、出会い交流支援、1-2、周産期・小児医療の確保、1-3、出産・子育ての負担の軽減の3項目を、基本方針2に対しては、2-1、学習機会の提供としています。13ページ、3. 具体的な施策では、新たに、1-2の1つ目、地域と連携した周産期・小児医療提供体制の充実へ看護師の復職を支援すること、また、1-3の1つ目、妊娠期からの切れ目のない支援へ伴走型の相談支援、給食、医療費の無償化、SNSを活用した情報発信を加味しています。14ページは、KPIです。新たに、こども家庭センター設置箇所数を追加しております。

次に、15ページを御覧ください。基本目標4「地域を支える人材の育成」です。1. 基本方針は、(1) 東京農業大学や日本体育大学との連携、(2) 多様な人材の育成・確保、(3) 学校教育の推進、(4) 社会教育の推進を掲げています。KGIは、全国学力調査、体力調査の全国平均との差で、令和5年度の基準値に対し、令和11年度の目標を全国平均以上としています。16ページ、2. 講ずべき施策に関する基本的な方向は、基本方針1に対しては、1-1、東京農業大学との連携、1-2、日本体育大学との連携の2項目、基本方針2に対しては、2-1、大都市圏などからの人材確保、2-2、大学生や高校生によるまちづくりの推進の2項目、基本方針3に対しては、3-1、子どもの学習環境の充実、3-2、教育環境の充実の2項目、基

本方針4に対しては、4-1、市民の学びの場の充実としています。17ページ、3. 具体的な施策では、新たに、1-1の1つ目、地元に着する人材の確保へ大学が行う学生確保対策への支援を盛り込んでおります。また、2-2、大学生や高校生によるまちづくりの推進では、大学生、高校生などの研究・研修等の活動支援を、同じく18ページ、3-2、教育環境の充実では、素案記載の4項目を追加しております。19ページ以降は、KPIです。新たに、学生生活支援件数、いじめはどんな理由があってもいけないことと思う割合、教職員の残業時間が月45時間を超える割合を追加しております。

次に、21ページを御覧ください。基本目標5「安全・安心で持続可能な地域づくり」です。1. 基本方針は、(1)誰もが安心して暮らせる基盤整備、

(2)小さな拠点づくりを結ぶコンパクトシティの推進、(3)公共施設などのマネジメント強化と住環境づくりの推進、(4)地域共生社会の実現、

(5)地域間連携施策の推進としています。KGIは、健康寿命と温室効果ガス削減量の2項目を設定し、基準値と目標値は、それぞれ記載のとおりしております。2. 講ずべき施策に関する基本的な方向は、基本目標1に対しては、1-1、安全・安心なライフラインの構築、1-2、健康寿命の延伸、1-3、GXの推進、1-4、DXの推進の4項目、基本目標2に対しては、2-1、コンパクトシティの推進、2-2、地域コミュニティ活動の推進の2項目、基本目標3に対しては、3-1公共施設などのマネジメント強化、3-2、住環境の提供の2項目、基本目標4に対しては、4-1、多文化共生・多世代交流の推進、基本目標5に対しては、5-1、定住自立圏等の地域間連携の推進としています。23ページ、3. 具体的な施策では、新たに、1-2、健康寿命の延伸の4つ目、移動型医療サービスの取組、24ページでは、1-3、GXの推進の2つ目、自治体新電力の推進、1-4、DXの推進の2項目、3-2、住環境の提供の3つ目、優良な宅地の供給、4-1、多文化共生・多世代交流の推進の2項目を追加しております。25ページ下段以降は、KPIです。新たに、防災イベント、訓練・研修の回数と参加者数、路線バス利用者数、どこバス利用者数、調整済み軽度認定率、温室効果ガス削減量、コンビニ交付率、都市機能誘導区域への誘導強化と転出抑制、SNS活用による町内会活動の支援、多世代交流の場の創出、網走駅の乗車人数を追

加しております。

以上でございます。

○井戸達也委員長 ただいまの説明に対し、質疑等ございますでしょうか。

よろしいですか。

○山田庫司郎委員 今、説明をいただいたのですが、これからこれをベースにしてまた議論を進めていくというふうに思います。ただ、前回までですね、まち・ひと・しごと含めて実施をしてきました。この検証についても、議会のたびに議員から質問もある中で、理事者のほうからもしっかりした検証をさせていただくという御答弁もいただいていますから、今後、今までやってきたまち・ひと・しごと創生総合戦略についての総括といいますか、検証をですね、行うのだと思います。その検証をベースにしながら、人口ビジョンも先ほど説明いただきましたが、そのことも含めて、このまち・ひと・しごと総合戦略が、将来的なものを含めて決めていくんだろうというふうに私は認識をしているのですが、検証についても、速やかにされるのかどうか、その辺もスケジュール的なものがはっきりすれば、教えていただきたいと思います。

○佐々木司企画調整課長 現行の第2期総合戦略につきましては、計画期間の最終年次が令和6年度、本年度いっぱいとなっております。令和6年度を終えた時点での実績を基に、令和7年度に最終の検証作業を行ってまいりたいと考えてございます。

○山田庫司郎委員 そうなりますと、令和7年から、今説明いただいた第3期のまち・ひと・しごと総合戦略が動き出すことになるんだろうというふうに思いますから、今の2期の部分の検証をしっかりしてですね、今説明いただいた、3期の総合戦略についても、しっかり議会の中でも議論させていただきたいと、こんなふうに思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○井戸達也委員長 ほかに質疑ございませんか。よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

今日、説明いただいた議件1. 網走市人口ビジョンについて、そして、議件2. 第3期網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略素案について、これらについては、まちづくり全体に関わる内容としてですね、今後の皆さんの一つの資料として御活用いただければと、このように思っています。必要に応じてまた、委員会で取り上げるような形になろうと思ひ

ますけれども、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

それでは、以上で総務経済委員会を終了いたします。

お疲れさまでした。

午前 11 時 24 分閉会
